

札幌市立かっこう幼稚園の取組【読書：図書館活用授業】

1 研究のねらい

子どもが生涯にわたる学びの基礎となる読書の力を身に付けるうえで、幼児期には大人に「本を読んでもらう楽しさ」を存分に味わう経験が不可欠である。しかし、就労している保護者の増加に伴い、家庭でゆったりと本を読む時間を生み出すことが難しくなったり、家庭での読み聞かせもタブレットなどの機器を利用したりなど、IT機器に親しんでいる現代の保護者ならではの関わり方も見られるようになってきている。我が子を膝の上に載せ、ゆったりと自分の声で絵本を読み聞かせる時間の心地よさ、絵本を通してイメージの世界や遊びを我が子と共有する楽しさなどを保護者自身が実感できるよう働きかけていくことは、幼児の育ちを支えるうえで大切になってくる。本園では、絵本に関連した内容を教育活動に取り入れ、親子で心に響く体験となるような取組を通し、絵本への関心を高めていきたいと考えている。

2 取組内容

(1) 保護者との連携

① 保護者と連携した『かっこう文庫』の貸出し

本園では、毎月幼児に絵本貸出しを行っている。その際、保護者に貸出しと回収作業をお手伝い（輪番制）していただき幼児の様子を目にできる機会とした。

3・4歳では担任が子どもの発達や興味に合わせて貸出し絵本をピックアップし、そこから子どもが選ぶという方法をとっているが、貸出担当の保護者は、子どもたちが絵本を真剣に選ぶ姿から成長を感じたり、大切に選んだ絵本を家庭で読む時間を大切にしようという意識が芽生えたりしている。また、発達年齢や季節に応じた絵本の選び方を保護者が学ぶ場面にもなっている。



5歳児は絵本コーナーのたくさんの絵本の中から、自身の興味・関心に基づき、じっくり調べることを楽しめる科学的な絵本や図鑑、言葉のもつ音や意味の面白さを感じる絵本、イメージの世界に浸る楽しさを味わえる物語など、これまでの経験を生かし意欲的に自分で選定する。そのような姿を保護者が目にするすることで、幼児が読書の面白さを感じ、絵本を借りることが身近な活動となっていることを実感している様子が見られている。

② 絵本ワークショップ（参加型保育参観）

参観日を利用し、親子で絵本の世界を楽しむ企画として、絵本を題材とした『親子絵本ワークショップ』の取組を行っている。教育活動で活用している月刊誌や大型絵本の世界を親子で再現したり体験したりすることによって、我が子が絵本のどのようなどころに楽しさを感じているのか、絵本の内容からどのようにイメージを膨らませたり、自分たちの遊び



や生活に取り入れたりしているのかなど幼児期の発達の特徴を理解することにもつながっている。また、ワークショップ後の懇談では、担任から発達の段階に応じた活動のねらいの説明や保護者同士で感想を聞き合う時間があることで、絵本を通した親子の関わり方を考える時間にもなっている。

③ 季節に応じた絵本の活用

季節に応じた絵本や教師の推奨絵本などを、玄関や絵本コーナーへ向かう踊場に掲示し、園児だけではなく保護者の目にも入るようにしている。「今の時期、こんな活動をしている背景にはこんな絵本との繋がりがあったのね…」など、保護者が教育活動への理解を深める一助になっており、親子の会話に取り入れたり、保護者自身が絵本購入等の際に選定の幅が広がったりなどの感想も寄せられている。



(2) 地域の未就学親子への子育て支援

① ポロップひろば『子育て講座』の開催

本園では札幌市の研究実践園事業として、地域の未就学親子に幼稚園を遊びの場として提供する『ポロップひろば』を毎月開催している。幼稚園で遊ぶだけではなく、子育てに役立つ情報提供の場としても活用していただけるように、子育て講座の開催にも取り組んでいる。



今年度は札幌第一こどものとも社代表の藤田春義氏を講師に招き『親子で絵本を楽しもう』をテーマに、年齢に応じた絵本の選び方、親子での楽しみ方をお話ししていただいた。子どもが絵本を好きになるのは身近な人と一緒に絵本を楽しむことが大切であることや、子どもが膝の上に座って或いは寝る前の読み聞かせのひと時が、親子の温かな思い出となり健やかな成長を育む礎の時間となることが伝わり、そのような時間を大切にしたいという感想から意識の変容も伺える。

3 成果と課題

(1) 成果

絵本の貸出しや参観日、子育て講座等を通し、幼児だけではなく、保護者にとっても「楽しかった」「新たな発見があった」という思いがもてたことが、絵本を通した我が子への関わり方を考え、視野を広げることにつながっていった。保護者の意識が少しでも変化することで



、幼児も絵本の読み聞かせの心地よさをこれまで以上に感じ、読み聞かせの時間や絵本貸出しの時間を心待ちにする様子が見られるようになった。

(2) 課題

保護者の絵本への関心の高まりは感じられているが、今後は、家庭での読み聞かせの実態がどのように変化しているかリサーチするなどし、幼児が絵本の楽しさを存分に味わうため、幼稚園がさらに力点を置くべきポイントを探っていきたい。